

授業改善推進プラン

○=よい点

●=課題

<h2>3年</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に描いたり工作したり、道具の使い方を習得したり楽しんで造形活動を行うことができる。 ○友だちの作品の工夫や良さを感じて、自分の作品にも取り入れようとするすることができる。 ●作品を相互鑑賞する際、文章や発表で表現することが苦手な児童が数名いる。 ●Chromebookを使うことへの興味が高く、絵や立体をつくることへの集中力が持続しにくい児童が数名いる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の進度や発想力・技能の個人差に応じた見本例の示し方 ・集中力を持続できるよう、興味・関心の高まる題材及び時間設定・ICTを活用した授業進行の工夫 ・意欲を向上させるための学び合いの場の設定
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のおよさや工夫などの気付いた点、自分のがんばった点などを、他の人に伝えることができるよう、発表や相互鑑賞、中間鑑賞を取り入れて意欲を高めながら伝えることの楽しさを味わえるようにする。 ・発表や鑑賞の際に、感じたことを表現する言葉を例示し、児童が選択して活用できるようにする。 ・Chromebookを活用した活動を取り入れて学び合い、意欲向上を図る。

<h2>4年</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○図工の学習に対する意欲が高く、楽しんで造形活動を行うことができる。 ○話を聞く時は聞く、制作する時は制作するというメリハリをつけることができる。 ○見た物や生物の様子を丁寧に描こうとする姿や感じたことを工夫しながら表現しようとする姿が見られる。 ●作品を相互鑑賞する際、文章や発表で表現することが苦手な児童が数名いる。 ●発想力・技能の個人差が大きく、出席番号順で座らせるだけだと発想の広がりが見られにくい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の進度や発想力・技能の個人差に応じた見本例の示し方 ・学習意欲を高められるめあてや板書の工夫 ・中間鑑賞や、発表など、発想の途中の段階での共有 ・技能面における個に応じた指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のおよさや工夫などの気付いた点、自分のがんばった点などを、他の人に伝えることができるよう、発表や相互鑑賞、中間鑑賞を取り入れて意欲を高めながら伝えることの楽しさを味わえるようにする。 ・意欲の高められる分かりやすいめあてを児童と一緒に考え、授業の途中でめあての達成に近づいているかを確認すると共に、振り返りで達成できているかを確認し、認めていく。

5年

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の技法や道具であっても新たな使い方を発見しようと創意工夫することができる。 ○今までに使用したことがない新たな技法について、説明を真剣に聞き積極的に道具や材料を使用することができる。 ○お互いの良い点は認め合い、改善すべき点は自分たちで気がつき注意し合ったり、協力して取り組んだりできる。 ○自分の作品についての思いをしっかりともち、自信をもって発表することができる児童が多い。 ●制作の計画性や見通しをもつことが難しい児童がいる。 ●作品について文章や発表で表現することが苦手な児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面における個に応じた指導の工夫 ・個別に思考を深め、児童の思いをよりの確に表現するためのアイデアやイメージの元を増やす感性をより養うための授業進行 ・意欲を向上させるための学び合いの場の設定 ・制作期間中の見通しの例を提示して、計画性を身に付けさせる工夫
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「作る時間」「見る時間」「聞く時間」など授業を区切り、一つのことに集中できるようにする。 ・計画性を身に付けさせるために、その日の制作のゴールを確認したり、ふりかえりで次回制作することを伝えたりする。また、制作日を板書しておき、視覚的にもわかるようにする。 ・授業のふりかえりやまとめを書く時間で、学習した言葉を活用することを促し、定着させる。

6年

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に学習に取り組み、集中して作品を制作することができる。 ○道具の準備や片付けをしっかりと行い、学習環境にも気を配ることができる。 ○互いの良さを認め合うことができる。 ○課題に対して、授業だけでなく家庭学習でも思考を深めて、アイデアを文章や絵に表す活動を進んで行うことができる。 ●造形表現に対して、めあてに沿って取り組むことができるが、一人ひとりが自信をもって表現できるところまでは難しい児童もいる。 ●自分の作品に集中して、客観的視点を取り入れようとする意識が不足しがちな児童もいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作進度や発想力、技能に応じて個人に合わせた支援や言葉がけ ・見通しをもって制作できる指導法の工夫 ・作家の作品や他校の作品、様々な学年の作品に触れられる機会の確保
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の全体計画を把握できるようにし、こまめに振り返りを行い自分の作品を見直す時間を作る。 ・既習事項と結びつけて考えたり、知識を活用して考えたりする活動を取り入れて、繰り返し指導する。 ・名画鑑賞や同年代の児童作品など様々な作品に触れ、視野を広くもてるように指導する。